

日を追うごとに秋も深まり、街中でも彩り鮮やかに美しかった木々の葉が、風に吹かれて舞い落ちる、いよいよ冬の訪れを感じる今日この頃です。現在会員登録数 944 人さま。ご愛読いただきありがとうございます。次号は 12 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 【1】お知らせ
- 【2】コラム
 - 《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk
 - 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 27
 - 《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-
 - 《4》 行って来ました!
- 【3】全国のイベント紹介
- 【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ

● 「万博のころ子どもだった...in EXPO'70 パビリオン」 展
吹田市 万博記念公園内 EXPO'70 パビリオンで、1970 年代の子どもの本や雑誌の展示&イベントを開催します。

展 示 11月29日(木)まで開催 無休、入場無料(入園料は必要)
街頭紙芝居 11月23日(金・祝)午後2回 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/24expo70.htm

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

■ 【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『ミナのお話』 デイヴィッド・アーモンド/作 山田順子/訳 東京創元社

2012年10月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：ミナは頭の中でイメージが次から次へと湧いてくる「かわった」女の子。作文の試験で解答とはかけ離れたナンセンス詩を書いたことがきっかけで、学校をやめ、母と家で勉強することになる。ミナは、木の上に座

り、隣に引っ越してきた家族を観察しながら、自分の感じたこと、考えたことを、1冊のノートにさまざまな文体で綴っていく。『肩胛骨は翼のなごり』の姉妹編。

○：文学の香り高い作品でした。

Y：シェイクスピア、ウィリアム・ブレイク、ルイス・キャロル、ギリシア神話、モーリス・センダックや詩人のマイケル・ローゼンまで登場します。

○：外からは変わり者と見られている、空想好きで、自分の行動に自覚的で、誇り高い個性的な少女が納得できる形で描かれていました。

Y：ノートに言葉や文章を書き連ねながら、自分自身を見つめていく姿勢は、作品自体が「書く」とは何かということを実践的に示しているように思えました。

ミナはノートに、木の上で観察しているブラックバードの卵が孵る様子や、隣人が亡くなって新しい住人がやってくる様子を書くだけでなく、過去を振り返り、見た夢を描写し、物語を創作し、詩を書きます。

想像を膨らませる楽しさのみでなく、時には、孤独を感じたり、悩んだり、気弱になったり、反省したりする内容も繊細で率直に書かれており、共感を抱きました。

○：著者の『肩胛骨は翼のなごり』や他の作品にも共通するように、主人公であるミナは鳥への執着を見せます。自由へのあこがれ、空想へのはばたき、生への希求が、象徴的に描かれていると思いました。

Y：冒頭と、結末がタイトルと同じ「あたしの名前はミナ」(My name is Mina)です。

○：名乗りで始まって名乗りで終わる。『我が名はアラム』(ウィリアム・サローヤン/著 福武書店)や『私の名は紅』(オルハン・パムク/著 藤原書店)を思い出しました。ミナという少女の内面を描きながら人間とは何か、世界とは何かを語るのにふさわしいタイトルだと思いました。

Y：11月3日の講演会で、アーモンドさんは「ミナは自分の分身だ」とおっしゃっていました。

○：ミナの日記の書き方が、その時見せてくださったアーモンドさんのアイデア帳に似ていて興味深かったですね。

Y：文学の将来についての質問に対して、「物語への深い信頼感があるため、メディアの状況が変わろうとも文学は生き残る」というお答えに、この作品が生まれた理由がわかったように思いました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 27

その6 絵本の読み方(2) 声でイメージを届ける

よく、ボランティアの方から「感情を抑えて読む方がいいですか」という質問を受けます。一方で、声を張り上げたり、絵本を持ちながら動作をしたり、まるでアニメの声優のような声で絵本を読む方も見かけます。

例えば、『ぞうくんのさんぽ』(なかのひろたか/作・絵 なかのまさたか/レタリング 福音館書店 1977年)では、ぞうくんが、かめくんに「いっしょにいこう」と散歩に誘うと、かめくんが「それじゃあぼくものせてよ。」という会話があります。水彩で大きなぞうくと小さなかめくんが描かれ、散

歩の風景はのんびりとしていて楽しそうです。

そこで、二人の会話部分は、登場人物のイメージを読み手が解釈して読むこととなります。大きなからだのぞうくんは少し太くて低めに、小さなかめくんは、やや高くして細めになるでしょう。ただし、声を作ると、声が平板になったり、息がつまって聞きにくくなったりしますので、あくまでも自分自身の声の中で表現することが必要です。

情景描写を読むときも同じです。例えば、『ゆき』（ユリ・シュルヴィッツ/作 さくまゆみこ/訳 あすなろ書房 1998年）は、雪がだんだん降ってくる様子を絵とことばで表現した絵本です。冒頭部分ではひとひらの雪が舞っているのが、最後には町中が雪で埋め尽くされています。

そこで、それぞれのページで、「ゆき」ということば自体の読み方が変わってきます。また、絵の中では、迷惑そうな大人たちと、雪を楽しむ少年が対比的に描かれています。どちらに寄り添いながら読むかで、情景を伝えることばのイメージも変わります。そして、「ちらちら おどって、くるくる まわって、ふわふわ あそんで、ひらひら とんで」という雪の表現は、特に「ちらちら」「くるくる」というオノマトペを大切にしながら読むことで、音で雪のイメージを届けることができます。

音と色や形のイメージをぶつからせて作られている絵本が、『もけらもけら』（山下洋輔/作 元永定正/絵 福音館書店 1990年）などのことばあそび絵本です。描かれている絵が抽象的であるため、その解釈は読み手によって大きく異なります。ことばに無理に意味を持たせようとせず、読み手が画面のイメージを見ながら、書かれていることばをリズムのある音として表現したとき、この絵本が、山下洋輔のジャズピアノの即興演奏のように、楽しいものとして聞き手に響くでしょう。

絵本を読むということは、感情を抑えて読むのでもなければ、読み手のパフォーマンスの場でもなく、絵で描かれている物語世界をことばで語ることです。絵のイメージを、自分の声の大小、強弱、高低、長短、声の調子、間等を変化させることによって、物語を伝えるということになります。

*次号は「その6 絵本の読み方(3) 絵本を見せる」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇7回目。今回ご紹介するのは以下のサイトです。

●大阪府立中之島図書館 人魚洞文庫データベース

<http://ningyodo.library.pref.osaka.jp/index.html>

大正から昭和にかけて、全国各地の郷土玩具を収集し、それらを丹念に描いたおもちゃ画家・川崎巨泉をご存じでしょうか。氏が描いた116冊5,000種類にもものぼる自筆写生画帳は、没後中之島図書館に寄贈され、人魚洞文庫として今日に伝わっています。

本データベースは、巨泉によって描かれた郷土玩具全作品をデジタル化したもので、その玩具は、北は北海道から沖縄、はては周辺海外まで及びます。郷土玩具だけでなく縁起物、土産物なども描かれ、児童文化史、社会風俗史の重要なコレクションとして、今日では見ることのできない貴重なアーカイブとなっています。

ちなみに、「子供」で検索してみますと、弘前や花巻、秋田など東北各地の人形絵から、関西では京都伏見の子供相撲絵、大阪の住吉人形など、130種を超える玩具絵を見ることができます。また、「金時」では、各地に伝わる35種類もの金時がヒット。金時伝説を考えるうえでこうした図像は実に興味深い資料です。いずれも繊細にして彩色豊かに描かれ、あたたかくユーモラスな描画はどこか郷愁を感じさせます。

郷土玩具と言えば、即座に想起するのが童画家・武井武雄です。「子供之友」「コドモノクニ」等で独創的かつモダンな画風を造形した童画の巨人は、郷土玩具の収集家・研究者でした。また、巖谷小波が馬にまつわる郷土玩具を収集し、千里閣という展示施設を作ったこともよく知られています。このように、郷土玩具は児童文学者の創作欲を刺激し、児童文化とも大変関わりが深いといえます。(J)

※次号は、一次資料データベース篇〈その8〉の予定です。

《4》 行って来ました！

東大阪市の花園ラグビー場近くにあるドリーム21（東大阪市立児童文化スポーツセンター）でプラネタリウム「銀河鉄道の夜」を見てきました。

初めに当日午後8時の大阪の街の電気を全て消した状態の空が映し出され、星空の解説がありました。直径20メートルの半球状の天井に、普段見ることのできない無数の星が浮かび上がりました。秋の夜空はギリシャ神話のドラマチックな舞台となっていて、「秋の四辺形」を目印に、ペガサス座やアンドロメダ座、ペルセウス座などの星座を見ることができました。

次に宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」の世界がデジタル映像として、空いっぱいに広がりました。音楽と朗読を聞きながら、ジョバンニやカムパネルラといっしょに、汽車に乗って、はくちょう座の“北十字”から“南十字”までの星座の旅を体験します。

天井いっぱいに広がる銀河の世界は、とても美しく幻想的です。色とりどりに光る三角標、赤く燃える蠍の火、輝く天の川、走る汽車の風に揺れる青いりんどうの花、物語世界が緻密に描写されていて、不思議な旅の感覚を味わいました。

プラネタリウムを見るのは何十年ぶりでしたが、星の美しさに夢中になった約1時間でした。「銀河鉄道の夜」をじっくり読み直したくなりました。(K)



【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「夢を描く 夢をはこぶ 旅とのりもの いまむかし展」

会場：大阪府立中央図書館 1階（東大阪市荒本）

期間：開催中 ～12月28日（金） 休館日あり

内容：明治以降、鉄道をはじめさまざまな交通網の発達は、旅の目的や手段を多様化させました。欧亜連絡に関する旅行案内書や子どもの本に描かれたいろいろな旅やのりものを、府立中央図書館と国際児童文学館の蔵書より紹介します。約70点

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」の文中で紹介しました『肩甲骨は翼のなごり』（東京創元社 創元推理文庫）を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.27プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は12月10日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

冬の足音が聞こえ始めたこの季節。優勝争い以上に、熾烈な戦いを続けているのがサッカーJ1リーグの残留争い。残念ながら、関西の3チームはいずれもこの戦いに巻き込まれている。それぞれに監督を途中交代したものの、さほどの成果は上がらない。やはり、チーム作りの基礎はオフにあり、か……。それにしても、劇的なフィナーレを期待したい。ガンバ！（A）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp